

令和 元 年 6 月 24 日現在

機関番号：32505

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16829

研究課題名（和文）消滅危機に瀕した中国湖南省邵陽県平話の緊急調査

研究課題名（英文）Emergency Survey on Endangered Pinghua Dialect in Shaoyang County of Hunan Province, China

研究代表者

王 振宇（WANG, ZHENYU）

中央学院大学・商学部・准教授

研究者番号：70532191

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の対象は中国湖南省邵陽県北部で話されている「邵陽県平話」という漢語方言である。この方言は周辺のこととは著しく異なる特徴を数多く有しているが、これまで調査や記述が殆ど行われていない。「邵陽県平話」の話者は現在非常に少なく、しかも多くが75歳以上の高齢者であるため、消滅の危機が非常に高い。本研究は28年度から30年度までの3年間にわたって、この消滅の危機に瀕した「邵陽県平話」の音韻、基礎語彙、文法に対する調査作業を行い、現地調査で得られた音声資料を文字化し、「邵陽県平話」のデータベースを構築した。また、6本の学術論文と4回の学会参加を通して研究成果を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで「邵陽県平話」に関する文献資料はほとんどなく、また現在の話者が殆ど75歳以上の高齢者であるため、調査・記述の必要性和緊急性が極めて高い。本研究は「邵陽県平話」に関する唯一の体系的な研究であり、邵陽県方言の音韻・語彙・文法のデータベースを構築するなどの作業を通して、もうじき消滅する邵陽県平話の一部を保存することができたと同時に、中国語方言の記述研究に貢献ができると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The object of this research is the Pinghua dialect being spoken in the northern part of Shaoyang County, Hunan Province, China. This dialect has many features that are significantly different from the surrounding dialects, but so far no investigations or descriptions have been made. In addition, the number of speakers in Pinghua dialect is very small, and many are elderly people over the age of 75, so the crisis of extinction is very high. In this research, I went to Shaoyang County and recorded the phonological system, vocabulary and grammar using a questionnaire over three years. I built a database of the dialects. Finally, based on my analysis on the variation between spots, I have published six articles and made four presentations at conferences.

研究分野：言語学

キーワード：漢語方言 湘語 平話

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は平成 26 年中国湖南省邵陽県北部の岩口舗鎮で方言調査を進める中、寄せられた次の情報をきっかけに、本研究の対象「邵陽県平話」の存在をはじめて知った。現地のインフォーマントによると、邵陽県北部の岩口舗鎮、長陽舗鎮の一部の村落では 2 種類の方言が話されている。一つは周辺地域のことばに近い湘語方言であるが、もう一つは地元の人同士でしか通じず、「平話」ともよばれる言語であるという。この情報を裏付けるために、邵陽県方言の概略を記した『邵陽県志』を調べた。そこには「平話」の記述が見当たらなかった。その後、「邵陽県平話」に対する初歩的な調査を行った結果、湘語方言に見られない多くの特徴的な言語現象を「邵陽県平話」が有していることがわかった。たとえば、中古漢音で鼻音韻尾を持つ字の多くはこの方言で鼻音韻尾を落としていること、主母音の高舌化が著しく進んでいることなどが挙げられる。興味深いことに、これらと似たような現象は周囲の湘語方言に見られないが、50 km 以上離れた南に位置する「湘南土話」、さらに 100 km 以上離れた南に位置する綏寧県閩峽郷の「閩峽平話」にも同様に観察されている。湘南土話の分布地域は地理的に最北の地点が東安県とされている。邵陽県は南に東安県と境を接しているが、これまで邵陽県内における「湘南土話」の存在に関する報告が一切なかった。果たして「邵陽県平話」は「湘南土話」と同じ方言のグループに属するのか。このような問題を解決することを目的に、本研究に取り組んだ。

## 2. 研究の目的

本研究は消滅の危機に瀕した「邵陽県平話」の音韻・語彙・文法、方言文学を調査、記述し、言語データを極力多く記録、保存することを目指す。研究期間内に、以下の諸点を主な課題として研究を進める。

- (1) 「邵陽県平話」音韻体系を分析し、「同音字表」を作成する。
- (2) 「邵陽県平話」の基礎語彙を集めて漢字と IPA (国際音声記号) により記録し、地点間の比較が可能な「邵陽県平話の基礎語彙集」を作成する。調査語彙は天文地理、方向場所、時間季節、農事農具、住居器具、植物農産物、動物、親族呼称、身体部位など 1000 余りの語彙数からなっている。
- (3) 各代表地点の重要な文法項目について調査を行い、文法項目のデータベースを構築する。文法項目の調査票は 100 の例文からなっている。
- (4) (1) ~ (3) に基づき、邵陽県平話の全体図を明らかにする。さらに、湖南省南部の東安県花橋鎮の「湘南土話」、綏寧県閩峽郷の「閩峽平話」に「邵陽県平話」とよく類似する特徴が観察されたため、「邵陽県平話」と「湘南土話」、「閩峽平話」との比較研究を行う。このような比較研究を通して、邵陽県平話の位置づけ、湘語方言の形成過程を検討する。

## 3. 研究の方法

研究内容は方言調査、方言データの整理・保存、研究成果の発表という 3 つである。具体的に述べると次のとおりである。1) 方言調査：中国湖南省の邵陽県北部に赴き、平話方言の調査を行う。2) データ整理：調査で得られた邵陽県平話方言のデータを整理、分析する作業を行い、データベース構築の作業を進める。3) 論文執筆：邵陽県平話および周辺方言の特徴について論文にまとめ、学術雑誌に投稿する。

## 4. 研究成果

平話は消滅の危機に陥っている方言であり、話者がほとんど 75 歳以上の高齢者であるため、適当な調査協力者を見つけるのが極めて困難である。本研究では適当な方言話者を 3 名見つけた。これらの話者に対する調査票調査を行い、単字音、基礎語彙、調査文を収録した。その成果として 500 個あまりの単字音、1000 あまりの語彙、100 の文を録音の形式で採集し、平話方言のデータベースを構築し、消滅の危機に瀕する平話方言の一部を保存することができた。そして、現地出身の知り合いの協力を得て、邵陽県北部の岩口舗鎮、長陽舗鎮、および周辺の村をすべて車で訪れた。よって、これまで不明だった平話方言の使用範囲を調査し明らかにした。過疎化が進んでいる村々であったが、村民に会うたびに車を降り、現地の方言使用状況を尋ねていく方法を取った。地道な作業で非常に苦労したが、これで比較的正確な情報を得ることができた。現在平話方言を自由に操られる人は 10 人以下であり、しかもほとんど 80 歳前後の高齢者となっているという消滅寸前の危機的状況が調査でわかった。

調査で得られた邵陽県平話方言のデータを整理、分析作業を行った。この作業を通して邵陽県平話方言と周辺地域の方言の関係を明らかにした。邵陽県平話は湘南土話と大きく異なっているが、一方、同じ邵陽地方に属する「閩峽平話」や「城歩青衣苗人話」などと多くの相似点を有している。また、湘語の「永全片祁東小片」という下位グループの方言と共通する特徴が多く見られるため、後者の方言グループに入れるべきだと考える。

邵陽県平話および周辺方言の特徴について 6 本の論文にまとめ、学術雑誌に投稿した。また、これまでの研究成果を社会に発信するために、国内外の学会に参加した。研究成果を 3 回の国際学会 (中国人民共和国上海市、同安徽省、アメリカ合衆国ウィスコンシン州) と 1 回の国内学会 (東京大学) において発表し、同分野の研究者と意見交換を行うことができた。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計 6 件)

王振宇 「邵陽県方言調査筆記」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 41 号、査読なし、2016 年 1 月、PP.59-67

王振宇 「邵陽県平話的部分語法特徴」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 42 号、査読なし、2016 年 7 月、PP.45-54

王振宇 「邵陽花鼓戯劇本中の邵陽方言」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 43 号、査読なし、2017 年 3 月、PP.39-56

王振宇 「邵陽県平話和周辺方言的關係」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 44 号、査読なし、2017 年 9 月、PP.99-110

王振宇 「湖南方言の完成体と已然体のマーカー」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 45 号、査読なし、2018 年 2 月、PP.33-56

王振宇 「「湖南短編小説選(1949-1979)」の方言について」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 46 号、査読なし、2018 年 7 月、PP.3-22

### 〔学会発表〕(計 4 件)

王振宇 第 3 回言語類型学国際学術シンポジウムにて口頭発表、「湘語邵陽県方言における 3 種類のアスペクト標識」、2017 年 7 月、於中国上海外国語大学

王振宇 第 9 回漢語語法化問題国際学術会議にて口頭発表、「湘語邵陽方言「到(倒)」の文法化」、2017 年 10 月、於中国安徽大学

王振宇 日本中国語学会関東支部 2017 年度第 4 回例会にて口頭発表、「湖南邵陽花鼓戯の台本に見られる方言特徴」、2018 年 2 月、於東京大学

王振宇 The 26th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics にて口頭発表、「瀕臨消失の湖南省邵陽県平話」、2018 年 5 月、於 University of Wisconsin-Madison (アメリカ合衆国)

### 〔図書〕(計 件)

### 〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

### 〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）:

(2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。